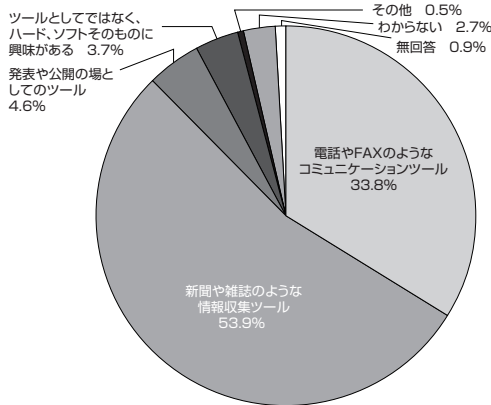
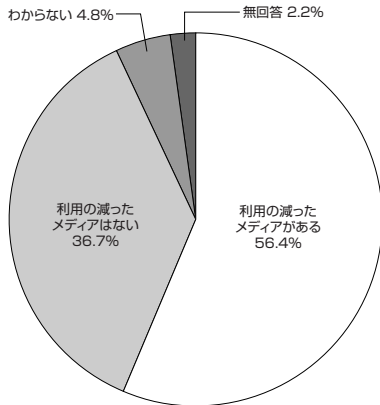


資料1-3-11 インターネットに対する考え方 N=1,684



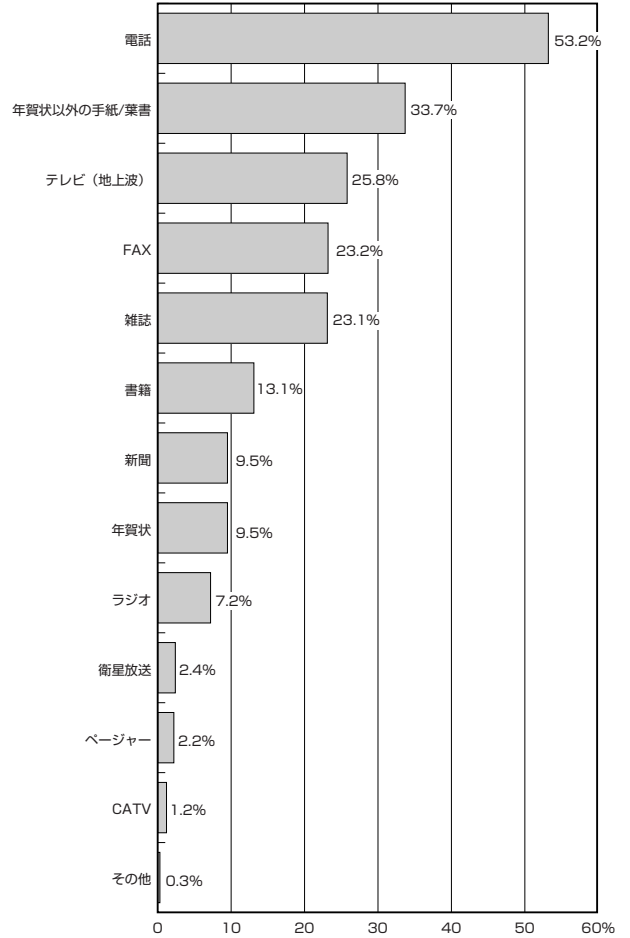
インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料1-3-12 インターネットを使うことで利用の減ったメディアの有無 N=1,684



インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

資料1-3-13 インターネットを使うことで利用の減ったメディア N=949



インターネット白書2001©インプレス,Access Media International,2001

解説

電子メールとサービスコンテンツ系については、今年も昨年13位だった「オンラインショッピング」が37.9%で5位に急浮上している。また、今後利用したい内容が現在利用中を上回っているのは「オークション」(11.5%：16.3%)、「インターネットラジオやテレビ番組」(7.6%：11.3%)、「金融商品取引/トレーディング」(6.5%：16.0%)、「バンキング」(4.3%：16.7%)「有料コンテンツ」(3.0%：12.1%)等である。

■他メディアへの影響

今年初めてインターネットに対する考

え方(資料1-3-11)を聞いた。大きく分けてコミュニケーション手段という位置付けと、情報を出し入れするツール、メディアとしての側面がある。特に個人利用者では「新聞や雑誌のような情報収集ツール」としての認識が大半を占める。電子メールの効用も大きく、全体の3分の1はコミュニケーションツールと考えている。今回はあえて1つだけの選択としたので明確に意見が分かれたとみられる。

インターネットの利用で減少した他のメディアがあるかどうかについては第2章の携帯電話/PHS同様、利用者全体の半

数以上があると答えている。実際に利用の減ったメディアは「電話」(53.2%)、「年賀状以外の手紙/葉書」(33.7%)、「テレビ(地上波)」(25.8%)、「FAX」(23.2%)、「雑誌」(23.1%)が上位に挙げられている。パソコンインターネット利用者の大半が「情報収集ツール」として位置付けているにもかかわらず、実際にはコミュニケーション手段である「電話」や「手紙/葉書」が最も影響を受けていることになる。

(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp